

日 時：平成30年5月31日（木）9：20～12：10

出席者：別本教育長、竹信委員、光村委員、徳岡委員、大庭教育総務課長、藤木室長、

松尾室長、小田指導主事、中西指導主事、森田保育リーダー

鳥取県幼児教育センター中部教育局 田中指導主事、谷本幼児教育アドバイザー

1 あいさつ 別本教育長

- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改定され実施の年。要領をどのように具体化して、日々の保育・教育で実践されていくのか。また大谷こども園ならではの特徴的な取組の説明も期待したい。

2 園経営方針の説明 飛川園長 資料p1～3

今年度異動により就任した。地元でもあり子ども達の姿が日常的に見える。家庭的で異年齢交流も自然にでき、よい雰囲気だと感じている。

<本年度の重点課題>

①心身ともに健康な身体づくり（もりもり）

- ・今年度は特に、運動遊びに継続して取り組む。動きの基礎的な部分をしっかり鍛えたい。
- ・農家が多く、早起きや朝食は習慣付いている。夜早く就寝できているか等生活実態をしっかり捉えたい。

②学びの基礎の育成（わくわく）

- ・保育者も環境の一部。職員自身がまず楽しむことを大切にするよう常々伝えている。種まきをしていく気持ちで取り組む。
- ・「やってみよう」「なぜだろう」という意識をもてる子に育てるため、職員がすぐに答えてしまうのではなく、考えさせるようかかわる。
- ・幼児期の終わりまでに育ててほしい姿について研修したい。

③豊かな心の育成（にこにこ）

- ・小規模で異年齢交流が自然にできる良さがある。毎月の誕生会ではふれあい遊びを行っている。徐々に相手の気持ちを考えながら交流できるようにしたい。
- ・行事が多いが、発達に必要な多様な体験ができるよう職員と考えながらすすめたい。
- ・あいさつ運動について。ほとんどの園児が早朝保育の時間帯に登園するため、職員が早く来れた時に玄関に立ちあいさつするようにしている。保護者と離れ際に気持ちが崩れる子どももおり、玄関でなく外であいさつができたらと考えている。なぜあいさつができないか、原因を考えて対策を行いたい。
- ・トイレのスリッパを揃えることについて。「次の人がすぐに履けるように」というように揃える理由を伝え、気付かせるように心がけている。

○地域とのかかわり

- ・行事が多すぎるとあそびを継続することが難しい。行事がは大切だが、持っていきかたを考えつつ取組みたい。

○特別支援教育

- ・各機関と連携を図り、どうしたら子どもが将来生きていく力がつくのか、押しつけにならないよう、親の思いを十分に受け止めながら一緒に考えていきたい。

○子育て支援事業

- ・地域に未就園児が少なく相談業務としてはあまりない。在園児の保護者で、朝離れがたいことに悩んでいる保護者と話したところ、涙を流され話をされた。上辺だけでなく、信頼関係を結び支援をしていくよう心掛けたい。

竹信委員) 行事が多いと感じる。なぜ5歳児と5年生が交流するのか。週1回以上行事がある。準備や事後の評価など各行事に付随する業務もある。よくやっておられると思うが、精査も必要ではないか。

飛川園長) 行事は今後精選していきたい。職員会では全員が共通理解することを大切にしている。パート対応によって全職員が参加できることはありがたい。5・5交流は、来年入学したらの1年生と6年生になる学年のため、5歳児と5年生が交流している。

徳岡委員) 初めてこども園に来たが、自分が5歳のときこんなにもいい子だったかなと思う。仕事量が多く大変だと思う。めざすところの枠にはめてしまうのではなく、行事を少なくしてもっと伸び伸びさせてもよいと感じる。

保護者とのつながりについて。先ほど園長の話で「相談時に涙を流される人も・・・」とあった。時代が変わっており、共働きが増えている。保護者とのつながりの時間を確保するようにしてはどうか。

### 3 保育参観

#### 4 連携、研究推進、特別支援教育の取り組み説明

○連携について 飛川園長 資料p10

- ・小学校の運動会に年長児が参加した。園の運動会とのギャップを感じる。園でどこまでやって、小学校でどこまでやるのか、小学校と話し合う必要がある。

○研究推進について 新名部長 資料p4～9、12

- ・昨年度は「すぐにあきる姿」「遊び込めない」ことが課題だった。環境構成の工夫についてさらに深めていきたい。また、新教育・保育要領の実施に向けて、領域「表現」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について職員で読み込んで確認しあった。今までの研究で明らかになってきたことや、今年度作成した「各年齢の目標」と「めざす姿」を実践を通して検証し、3年次のまとめを行いたい。

○特別支援教育について 新名部長 資料 p 1 1

- ・年度当初に園内研修会をもち、教育・保育要領解説を読み、個別の支援計画、指導計画について確認した。支援レベル表を園内委員会で作成したほか、メパについては苦手を見つけるのではなく、保育内容に活かすために実施することを共通理解した。年間計画に添って研修や委員会、会議を実施する。発達支援室とも連携を図りたい。

## 5 懇談

光村委員) 小学校との連携について。大栄側ではうまくいっていないことが課題だった。協議会の回数や協議内容は。

飛川園長) 4月24日には交流や反省会の年間の予定を決めた。6月5日には年長児の担任が小学校へ行き1年生の様子を参観してくる。

光村委員) こども園でどこまで育てるかについて話し合いはされているのか。

飛川園長) そこまでは話せていない。これから話し合う。

小田指導主事) 協議会自体が今までなかった。交流に計画性がなく、事前事後の話し合いもされていなかった。今年度は計画ができ見通しをもって取り組める。一歩ずつだが進んできている。話合いのなかで、園・小で共通の課題である基本的な生活習慣について取り組むことになっている。

別本教育長) 協議会で話し合った内容は、共通理解できているのか。

小田指導主事) 今後まとめて配布する。

竹信委員) 農家が多く朝が早起きとあったが、朝食は食べてきているか。5歳児の教材(葉っぱ)は、誰が採ってきたものか。

飛川園長) 朝食は、ごはんのみそ汁をしっかり食べて来ている。葉っぱは誰が採ってきたかは確認できていない。

竹信委員) 自分からアイデアを出すことに時間がかかる子どももいる。子どもと一緒に採ることで、形への気付きがありアイデアを思いつくことにつながると思う。前段からどのように関わるかを大事にしてほしい。

また、家はなぜ四角なのか。色々な形の家があり、四角ではイメージが持てない子どももいる。アイデアよりも、そもそもの導入部分を大事にするとうい。

例えばペタン、ペタンと言葉はないけれど、子ども同士で協調して叩いている姿があった。また、子どもが側面に貼った時等保育教諭が「なぜ気付いたんだろう？」と子どもの姿から考える余裕があると良かったと感じた。職員数が少ない中では、子どもの姿を共有する工夫が必要。記録として残すことで職員間で共有することができる。また、子どもの姿を映像で残して保護者懇談で伝えられるとうい。

徳岡委員) 小学校教員の長期社会体験研修(園での1年間の研修)も、可能であれば取り組めるとよい。

1~2歳児の頃から、恥ずかしがったり隠れたりするなど、一人一人個性があるのだと気付いた。3歳児ではのりをきれいに付けてから貼る子や、ちょっとのりを付けてただけで貼る子などいろいろだったし、5歳児では平面で作る子や立体で作る子がい

た。個性はその子の長所にもなりうるものだ。長い目で見て行ってほしい。

田中指導主事) 県の事業で小学校教員が保育所やこども園で1年間研修を行う事業があり、今年度は琴浦町が受けているところ。教員が出向くだけでなく、逆に園の先生も小学校で体験したいという要望があり、市町で取組を進めている。

別本教育長) 資料の内容が充実している。昨年度課題だったことが今年度の園経営にどう改善して組み込まれているか。園長・部長の思いを聞きたい。

飛川園長) 以前に比べてたくましさがなくなっている。一人だと自信がなくあいさつしない子どももある。本園は少人数であるがゆえに、目が届き過ぎてしまう面がある。徐々に手を離すようにし、たくましさを身に付けさせたい。園長・部長も保育の指導に入り、担任一人では気付かない部分を皆でフォローしていきたい。

新名部長) 職員の課題としては、保育の環境構成と、教育・保育要領にある「主体的」「対話的」という部分。環境の再構成や教材研究ばかりでなく、友だち同士でどのようにかかわっているのかを見取ることや、子どもの主体的な姿、遊びの展開につながる保育者の言葉がけ等についても職員会で共有している。職員の意識を変えていきたいと思っている。

## 6 指導助言

中部教育局(幼児教育センター) 田中指導主事

- ・昨年度、幼児教育センターができ、幼児教育の充実へ向けた取組も二年目を迎えた。本日は自分達にとっても計画訪問初日であり、先生方のあたたかいかわり(まなざし、言葉がけ)のおかげで、子ども達の安心、安全があるように感じた。
- ・教育要領が改定され、実施の年であるということが大きなポイント。本園でも研究の話合い前に読み込む等されていたが、時間のない中でどう取り入れていくかが工夫のしどころ。機会をどのように作っていくか、この1年が勝負の年である。要領が改定されたと言っても、変わらない部分もあるが、今までの保育を変えないでいいという訳ではない。変わらない部分ももう一度問い直す等、改めて振り返る機会にしてほしい。
- ・小学校への接続については、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」について研修も行うが、具体的な姿を通して、園の方からも発信してもらう必要がある。園での「遊びをとおした学び」を小学校へどう伝えていくか。昨年度発行した「接続ハンドブック」に、合同研修等の事例もあるので、ぜひ活用してほしい。
- ・先生方が同じ意識で研究に取り組まれていること伝わった。今後の課題として考えてほしいことは、子どもの興味・関心と先生のやらせたいことのバランス。4歳児の保育ではわかりやすく的確な指示を子ども達はよく聞いていた。色を混ぜて楽しんでいた男児に、先生が「何色？」と聞いたところ、男児は困り黙ってしまった。また、他の子どもが持ってきたものを見て先生が「きれい！」と言われた。男児は自分のやった色はきれいではないのかとがっかりしたのではないかと。一人一人の子どもが何におもしろさを感じているのか、「心が動く瞬間」を見取る力を磨くことが大切だ。子どもにとっての楽しさや興味の分析を通して、子ども達の「やりたい」につながっていくよう取り組んでほしい。

中部教育局（幼児教育センター） 谷本幼児教育アドバイザー

- ・ 少人数ならではのかわりや、手作りが多くあたたかさを感じる環境だった。新しい要領を全職員で読み込むなどよく学んでおられる。本日の保育も、研究の視点に添って新要領の「幼児期終わりまでに育てほしい姿」の「豊かな感性と表現」の領域で保育が組み立てられていた。
- ・ 各担任は思いをもちながら保育しているがクラス運営など一人では難しい部分もある。級外の職員が多様な目で保育を見て、客観的な視点でアドバイスをしていくことが大切だ。
- ・ 子どもの課題もあるが、保育者のかかわりや援助の部分の課題もある。園の課題として挙がっていたが、環境構成が大切である。
- ・ 1、2歳児は発達の個人差が大きく興味関心も異なる。例えば、感覚教具と子どもの姿を見つつ再構成する教材を分けるなど、教材の出し方や関わらせ方に更なる工夫が必要だ。
- ・ 3歳児の保育の今日のねらいは「のり付け」だったのか。指導案では「すてきな家をつくる」ことがねらいとなっていたが、担任の言葉がけの中に「きれいに貼ろうね」というものがあった。きれいに貼ることより、「もっとすてきな家」になるための援助が必要だと感じた。
- ・ 段ボール箱を叩くのが楽しく、子ども同士が共鳴する場面があったが、先生が「貼る」活動の方に促してしまっていた。子どもの姿によって、指導案で計画したことを変えることがあってもよい。
- ・ 4歳児の保育では、視覚的にわかりやすい環境が整えられ、道具の扱いについても的確な指導がされていた。約束事が多く、デカルコマニー（合わせ絵）の楽しさを伝えきれていなかった。出来上りを予測して色の配置を楽しむ子どももいれば、ただ重ね塗りをして偶然できた模様で共感してほしい子どももいる。保育者の見方を変えていくことが大切だ。
- ・ 5歳児の保育では、葉っぱをのりで貼っていたが、くっつかないのでセロハンテープを何回も取りに来る子どもが多かった。「作品をつくる」ことよりも「対話」を大切にしてほしい。

日 時：平成30年6月1日（金）9：00～12：10

出席者：別本教育長、竹信委員、光村委員、徳岡委員、大庭教育総務課長、藤木室長

小田指導主事、中西指導主事、森田保育リーダー、手嶋社会教育主事

鳥取県幼児教育センター中部教育局 田中指導主事、谷本幼児教育アドバイザー

1 あいさつ 別本教育長

- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改定され、実施の年。日々大変だと思うが、園でどのような取組をされているのか、北条こども園ならではの特色ある取組を聞きたい。園長が異動し、本園をどう運営していくのか。その思いも聞かせてほしい。

2 園経営の状況説明 松田園長 資料p1～3

- ・本日は欠勤の職員が5名おりパート対応せざるを得ない状況である。保育内容が指導案と違う学級もあることを了解いただきたい。
  - めざす子ども像
    - ①いきいきとあそぶ子…身近な自然に触れて遊ぶ子（わくわく）
    - ②おもいやりのある子…ありのままの姿を認め合う仲間（ふわふわ）
    - ③最後まで取り組む子…やってみようとする子（ぐんぐん）
- ・園児の姿や保護者の願いは変わっていない。町のめざす子ども像から、本園でめざす具体的な姿を挙げ、各項目には「わくわく」「ふわふわ」「ぐんぐん」とキーワードを付けた。

竹信委員）ヒヤリハット事例のデータはフォルダに保存してあるか。

松田園長）記録として紙媒体で残しているが、データでは保存していない。

竹信委員）どれくらい残っているか。件数はすべて上がっているのか。

松田園長）例えば、朝登園時に保護者を追って玄関を飛び出してしまったとか、園でのケガ等の事例が多い。

竹信委員）重大なことだけでなく、小さいことも残していくことが必要だ。

竹信委員）新採職員の研修の年間回数は。

松田園長）教育センターにおける園外研修は年間9日、園内における実践的な研修は年間10日間行う。

竹信委員）採用や異動などで新たに配置された際、他者の保育を見せてもらい、保育の進め方について学ばせてもらう機会があるとよい。モデル保育の提供はできているか。

松田園長）園内研修として、職員同士で保育を見合う研修を6月に予定している。

竹信委員）若い人が保育を吸収する機会が必要だ。「1年目にはこんな力をつけてほしい」などねらいをもって取り組んでほしい。

### 3 保育参観

#### 4 連携、研究推進、特別支援教育の取り組み説明

○連携について 小野塚幼稚部長 資料 p 8～9

- ・小学校と隣接し連携がとりやすい環境である。今後さらに進めたい。
- ・5歳児担任が小学校2年生（道徳）の授業に参加し、小学校では聞いて理解する力が必要だと実感した。幼児期から必要な力だが、連携することで見通しが持てた。
- ・公開保育や研究協議等、踏み込んだ職員連携ができていないことが課題。5歳児公開保育を小学校の先生に多く参加してもらえよう8月に実施予定。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」など共有する場にしたい。

○研究推進について 小野塚幼稚部長 資料 p 4～7

- ・昨年度の成果は、園児の主体性と主体的に遊ぶ子どもが増えたこと。具体的には、例えば枝きれを拾ったら、「これで何作ろうかな～？」と考えるなど、かくことやつくることが好きで、楽しんで自信をもってかいたりつくったりする姿が増えた。
- ・課題としては、物を大事にしない姿があること。今年度は、子どもの心に着目し、身近にあることを大事にして研究をすすめる。
- ・園の周辺には畑が多く、菜園活動や虫などの生物との関わりながら、保育者も一緒に感動するなかで育みたい。1年目の主題なので、子どもの姿から学びながら改善していきたい。

○特別支援教育について 小野塚幼稚部長 資料 p 10

- ・支援を必要とする園児の人数が多い。今年度は「特別支援モデル園研修」を3回計画している。

#### 4 懇談

竹信委員) 畑づくりに保護者の協力は。保護者会の協力は得られないか。

小野塚部長) 「お助け隊」としてチラシを配布し希望者を募集した。計画は未作成。PTAへの依頼までは考えていない。

竹信委員) 園だけでなく学校もだが、子どもの力をつけるためには園だけでは難しい。保護者も多忙だが、家庭教育、また保護者同士のつながりをつくるという意味でも保護者会をどう巻き込んでいくかが大切だ。全部園に任せるという意識ではいけない。

竹信委員) 絵本の読み聞かせはあるか。

小野塚部長) 地域ボランティアの「つくしんぼの会」の方に月1回来てもらっている。

竹信委員) 人とのかかわりは地域とのかかわりで育まれる部分もある。大事にしてほしい。

徳岡委員) 昨日の大谷こども園とのギャップに驚いている。大人数の園だからか自己アピールする子が多いと感じた。規模の違いによりメリット・デメリットがあると思うが、園の特

長をうまく利用できるとうい。

自己主張が苦手な子どもや、目立たない子どもへの対応も丁寧にしてほしい。

カエルの命を考えたら、かわいそうに思うこともあった。園児に捕まえられて相当弱っているカエルもいた。

松田園長) 昨年度まで大谷こども園にいたので、仰ることはよく理解できる。小規模で温かい雰囲気があるが、逞しさに欠ける面がある。北条こども園では委員が仰るように一人一人を大事に見ていくことが大切だと考えている。本園の良さを活かすことは、園長としての大きな課題だと思っている。

小野塚部長) カエルの命について。3歳児は興味があると触りたいが力加減が難しかった。5歳児が優しく持つ姿を見たり、カエルに日々かわり変化に気付いたりするなかで、今の姿に変容してきた。体験をしないで言葉だけで伝えるのがよいのか、難しい部分もある。

竹信委員) 遅れて登園する子どもはいるか。

松田園長) 9時半とか10時前に登園されるケースがあり個別に伝えているところ。

光村委員) 自分で教材を取りにいく、見つけにいくことを大切にしている点は良かった。研究主題を決められてから日が浅いこともあり、何を育てたいのかがぼやけている。ある学級では別のことをして遊んでいる子どもがいた。

小野塚部長) 全学年でねらいとしていたのは、「触れて気づく」こと。研究推進担当者としての思いが強すぎたかもしれない。

別本教育長) 「園内の自然環境を見直し」とあるが、畑のことか。

小野塚部長) 改めて見てみると、園庭の草花等自然環境はいっぱいある。

竹信委員) 玄関のところに、らっきょう掘りの絵があった。体験活動があることで活動の全体像を描くことにつながっていた。自然体験が子どもの意欲を引き出していると感じた。

一点気になったこと。就学前に文字に慣れるという意味でひらがなは大事な環境だと思うが、同じ学年でホワイトボードの表記の仕方が違っていた。細かいことかもしれないが、保護者に誤解を与えかねない。同じ学年で話し合うことはあるか。

松田園長) 各学年2クラスあるので、話し合うようにしている。

竹信委員) スケジュール表示も長さが違っていたり、環境調整のバラつきも気になった。

別本教育長) 小学校との距離も近いので連携は進んでいると思うが、年間の取組結果は互いに共有して進めているか。

小野塚部長) 園からは、3～5歳児の担任が参加している。各交流の事前事後の話し合いが主で、連携を通して「子どもの育ちをどうするか」までの話し合いはできていない。

小田指導主事) 保小連絡会の内容をまとめたものを園へ情報提供する。

松田園長) 北条小の校長先生と連携について話した際、「小学校の土台を園でしっかり育ててもらっている」「小学校教員は園での育ちをもっと知らなくてはいけない」と言われた。

竹信委員) 障がいのある園児と他児とのかかわりはうまくなされていることと思う。5歳児6月の「特別支援学級との交流」とは。

小野塚部長) 特別支援学級の児童とお茶会を一緒にするよう計画している。例年の取組。  
藤木室長) 北条幼稚園の時代から続いている交流。年々入級児童が増えたため、今は特別支援学級の低学年の児童が参加している。

幼児のねらいは、特別支援学級で学んでいることや、「ひまわり学級」「わかば学級」などの学級があることを知ること。児童のねらいは自分たちの学んでいる場や内容を幼児に伝えることや自信をもつことである。

## 5 指導助言 田中指導主事

- ・昨年度研修等でも関わらせてもらう中で感心したことは、先生方が子どもたちの「自分から」という部分(主体性)をどう引き出そうかと考えられたり、子どもたちの思いを引き出すかかわりを丁寧にしたりしていたこと。子どもたちも自分の思ったことを口に出したり友達同士で相談しながら遊びを進めたりしていた。
- ・今日の保育の振り返りの中で、ねらいに照らしてみて、一人一人が力をつけていた部分は、研究の視点が変わったとしても大事にされていくとよい。
- ・先生方が学ぶのを楽しんでいることを実感することが子どもたちに伝わっていく。併せて、実際やってみて子どもの姿が表している手ごたえ、あれ、何か違うなと思ったところがあれば、試行錯誤していく中で目指すところが明確になってくると思う。保育者の意図と子どもの姿が違う部分では「なぜ?」と考えることが大切だ。むしろそこに興味があると捉えると、次回はそこから展開していくことができる。
- ・4歳児はたくさん発言していた。どうキャッチして次につなげていくのか問われているところ。大人数のクラスで大変だが磨いていってほしい。保育者が想定していないことを言っているかもしれない。一人一人が自分を表現している姿を大事にしてほしい。
- ・連携については、昨年度末にハンドブックを作成・配布したところ。各校区でめざす子どもの姿や育てたい力について話し合い、深めていくことが大事だ。園内研修や小学校との合同研修でぜひ活用してほしい。

## 指導助言 谷本幼児教育アドバイザー

- ・昨年度表現の領域で取り組まれており、特に4歳児に関わらせてもらった。
- ・3年間の取組の成果が「葉っぱを使って表現する姿」によく表れていたように思う。研究主題は変わっても身につけている力は自然と出ている。大事にしなければならないことは変わらないのだと実感した。
- ・今年度のスタートを切られたばかりで、全体的に自然とのかかわりを取り入れられた保育内容が多かった。自然を保育室に持ち込んだ時点で、どこまで「自然」と言えるのか。
- ・カエルとの関わりについての話があった。3歳児の育ちを見たときに、0歳児ではどんな

経験をさせていけばよいか考えること。

- 5歳児の保育では、「虫メガネで見る」ことが楽しかった。ねらいと違う姿があったが、それが子どもの姿。意図と違う姿が見られた時、保育者としてのあり方が問われる場面だ。
- 0、1、2歳児では、1クラスの職員数が多くなるが保育のねらいや応答的なかわり（子どもの言動に対してどんな言葉を返していくか）について共通理解しておくことが大切だ。

日 時：平成30年6月6日（水）9：00～12：10

出席者：別本教育長、竹信委員、光村委員、徳岡委員、大庭教育総務課長、杉本生涯学習課長、藤木室長、小田指導主事、中西指導主事、森田保育リーダー  
鳥取県幼児教育センター中部教育局 田中指導主事、谷本幼児教育アドバイザー

1 あいさつ 別本教育長

- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改定され、実施の年。園の実践でどのように活かされているか。また小学校との連携などについても聞きたい。園長が由良こども園をどうしたいのか、熱い思いも聞かせてほしい。

2 「ゆらっこタイム」及び保育参観

3 園経営の状況説明 松岡園長 資料p1～3

○めざす子ども像

- ①いきいきとあそぶ子…笑顔いっぱい、夢中になって遊ぶ子（えがお）
- ②おもいやりのある子…自分の思いを伝え、相手の思いに気づく子（なかま）
- ③最後まで取り組む子…体を動かす心地よさを感じ、繰り返し取り組む子（げんき）
- ・今年度異動し、地元ということもあり保護者の幼少期時代を知っている家庭もある。全体的に子ども達は落ち着いて過ごしている。
- ・「ゆらっこタイム」は、5年前から体作りの一環として実施している。今年度から研究主題とも関連させながら、毎日15分程度を目安に、多様な身体の動きを経験できるよう内容を見直しながら取り組む。

4 連携、研究推進、特別支援教育の取り組み説明

○連携について 澤村幼稚部長 資料p8

- ・念願かなって事前の打ち合わせ会が実施できた。交流後の評価の反省会も行う予定。
- ・大栄小学校区でめざす子ども像が明確になった。今後は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有していくことが課題だ。小学校の授業研究会に園から参加するほか、小学校の先生方に大誠こども園の公開研究保育（町幼研）に参加してもらえるよう声かけを行い、園児・児童の具体的な姿をもとに協議を深めたい。

○研究推進について 澤村幼稚部長 資料p10～13

- ・昨年度のまでの研究の成果を土台にしつつ、新たな研究主題を設定した。
- ・園児の心身の課題と併せて、「ゆらっこタイム」の活動内容に計画性がないことが課題として挙げた。保育教諭主導でさせる活動から、園児が主体的に「したい」と思えるような環境と援助の工夫について研究を進める。

○特別支援教育について 宮本保育部長 資料 p 9

- ・特別支援教育年間計画に添って、園内の支援体制のもと必要な支援を行う。

## 5 懇談

徳岡委員)「ゆらっこタイム」では、体を動かす活動に喜んで参加していた。一番元気がある園という印象だ。元気があることは子どもで一番大事にしたいこと。人数のバランスも丁度よい。園の特色ある取組としてぜひ続けてほしい。また、他にも新聞紙等を使って遊ぶなどの工夫もしては。

竹信委員) 5歳児の話合いの場面ではもう少しメリハリが必要だ。子どもの困り感を聞くことは大切だが、全体の1/4は聞いていなかった。ある程度先生が介入し、どこかで話の方向性を示した方がよいのではないか。また、話し合いのルールが必要だと感じた。

「ゆらっこ」タイムはよい活動だが、発達段階を考慮すること、一人一人の発達課題のどこをどのようにねらっていくのかが大事だ。保育室は遊びや運動を行う場所であると同時に、給食を食べる場所でもある。衛生面を考えて分けることができればよいが。

アレルギー対応の工夫について聞きたい。

松岡園長) 最初にアレルギー対応の園児の分を調理し、その後に他の園児の分を調理する。

竹信委員) 避難経路になっている廊下等に物が置かれていた。いざという時の安全面を考えることが必要ではないか。

別本教育長) 研究の取組について。昨年度までの3年間の取組のまとめは作成したか。

澤村部長) 作成し職員で共有している。

別本教育長) 新しい教育保育要領等についてどのように研修を行っているか。

澤村部長) 毎月第3週の職員会で研究主題の内容を協議することとし、その中で新要領の読み合わせ等を行う機会をもっている。

別本教育長) 連携について。校区のめざす子ども像が共通理解できたことはよい。具体的な中身についてはどこまで話し合っているか。

澤村部長) それぞれの担任ができるような形で話し合いをもっている。具体的な方策等についてはこれから進める。

別本教育長) 虫歯の子どもが多いが、どのような対応をしているか。

松岡園長) 健診後に歯科受診と治療を進めている。家庭的は背景もあり難しいところ。

竹信委員) 保護者研修は年間どれくらい実施するか。

松岡園長) 年間2回計画している。

竹信委員) 園だけで一所懸命やるのではなく、保護者を巻き込むことが大切だ。

## 5 指導助言 田中指導主事

- ・先生方がとてもはつらつとしていて元気がよい。忙しい中だと思うが大事にしておられる

ことが伝わる。子ども達の身近にいる先生方の表情、声、行動全てが子どものモデルとなる。今後も意識してほしい。

- ・子ども達が、今何を学ぼうとしているか、どんな力を獲得しているかを丁寧に見て行くことが大事。それが幼児理解の基本的な部分である。
- ・「園児が自ら」とあるが、今日の実際の保育の中で、「自ら」とはどのような姿なのか。冷静に、客観的に振り返る中で、園児の実際の姿を通して考えてみてほしい。
- ・特に未満児のクラスでは、応答的・受容的な関わりを大切にすること。保育者が共感しているつもりでも、実は先回りしていることもある。よい関わりをしている先生の姿を園内に広げていくことも考えられる。

#### 指導助言 谷本幼児教育アドバイザー

- ・新しい研究主題を設定され、工夫しながら取り組んでおられること伝わった。改定された教育保育要領でも、「健康」の領域において、「見通しをもつこと」が加筆された部分である。今日の5歳児の姿をつながる部分だと感じた。例えば、「窓のところが危なかった」という気付き。危険なことについて見通しをもつ姿、狭いながらも縄跳びで周囲とぶつからないよう跳ぶ姿など、安全に遊べるよう子どもながらに考えて行動する姿があった。
- ・新要領では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」は、特に5歳児後半に見られるようになる姿とされている。5歳児に急に育つ姿ではなく、0歳児からの積み重ねが大事であり、「赤ちゃんだから仕方ない」ではなく、特に0歳児が一番大切な年齢である。

今日の保育では、保育者の言葉数がとても多かった。まず子どもの姿をよく見ること。先回りで子どもの何が育つのか。応答的なかわりについて考えてみてほしい。

日 時：平成30年6月8日（金）9：10～12：15

出席者：別本教育長、竹信委員、光村委員、徳岡委員、大庭教育総務課長、藤木室長

友定中央公民館長、小田指導主事、中西指導主事、森田保育リーダー

鳥取県幼児教育センター中部教育局 田中指導主事、谷本幼児教育アドバイザー

## 1 あいさつ 別本教育長

- ・前園長の退職に伴い、新しい体制となった。新園長の思いが園運営にどのように活かされているか。また「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」がどう職員に認識され実践に活かされているか知りたい。先生方は激務の中頑張っている。省けるところは省き見直していくことも考えていけるとよい。

## 2 保育参観

## 3 園経営の状況説明 竹本園長 資料p 1～6

○めざす子ども像

①自分が大好き（ちゃれんじ）…健やかな心と体

②友達が好き（にこにこ）…心育て

③あしたも遊ぼうよ（わくわく）…遊びきる子

- ・園長を拝命し身の引き締まる思い。いろいろご指導いただきたい。
- ・チャレンジタイムやあいさつ当番など、よい流れが定着している。
- ・園経営計画と各年齢の目標とのつながりを持たせ、発達の整合性を検証しつつ、学級経営安にも関連させ取り組んでいる。
- ・5月中に大きな怪我につながった事例が2件あった。職員間でヒヤリハットを共有するように努め、安全点検方法や計画を見直した。

## 4 連携、研究推進、特別支援教育の取り組み説明

○研究推進について 甲斐幼稚部長 資料p 7～11

- ・昨年度までの取組から、園児の姿を的確に見取ることの大切さを学んだ。今年度からは、協同性に向かう人間関係を研究主題として設定した。未満児では「集団の中での自己発揮」を、また以上児では「協同性」を取り上げ、研究をすすめる。
- ・研究主題の取組も7年目。一人一人の発達段階や育ちを見取り、子どもが遊びを通して何を学ぼうとしているか、など幼児理解の力がつき、研究協議ができるようになった。引き続き「協議できる職員集団」をめざし、保育部・幼稚部のリーダーを育て、組織的に取り組みたい。
- ・平成31年度には、鳥取県国公立幼稚園・こども園研究大会で発表する予定。今年の取

組を足がかりに来年度につないでいけるよう準備を進めている。

○連携について 甲斐幼稚部長 資料 p 1 3

- ・町の連携計画、方針が示され、大栄小においてスタートカリキュラムも作成された。ただ中身については、園の意見を取り入れてもらった訳ではなく、校区でめざす姿への具体的な取組も年間計画に入っていない。
- ・保こ小連絡会では、幼児期はできる、できないの評価ではなく、一人一人の意欲を大事にしていることを理解してもらう機会になった。現場レベルの話合いになってしまい、組織だった取組につながりにくい。園長、部長も参加できるとよい。
- ・小学校教員の半日保育士体験では、夏休み頃よりももう少し成長した1 2月頃に見てもらう方がよい。
- ・学校の先生方と学ぶ機会として町教研があるが、「就学前部会」と「研究推進部会」とがありどちらで連携の話をすすめていくのがよいのか。組織のあり方をはっきりした方が取り組みを進めやすいのではと考える。
- ・「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」が示され、小学校の学習指導要領にも記載されているが、小学校の先生方への周知、アプローチもお願いしたい。

○特別支援教育について 黒住保育部長 資料 p 1 1～1 2

- ・年間計画と具体的な取組に添ってすすめ、園内委員会を定期的を開催する。メパによるチェックと園内支援レベルを明確にし、園児の実態を職員間で共通理解した。
- ・初めて加配保育教諭補佐員になった職員もおり、園内研修で個別の週日案の書き方等について研修し、困り感を出しあい対応について協議した。
- ・感覚統合園内研修では、未満児の感覚統合の発達について学ぶ予定。事後研修を行い成果を園内で共有する。
- ・保護者支援が課題だと感じている。個別の支援計画の作成についても、どの段階で作成をすすめるのかが難しい面がある。

#### 4 懇談

別本教育長) 研究のまとめは作成したか。

甲斐部長) 作成し、職員間で共有した。4園あるので、町幼研でも共有できるとよい。

別本教育長) 園経営について。「わくわく」の部分に「遊び込む」「遊びきる子」とあるが、違いは。

竹本園長) 「遊び込む」とは、子どもが遊びに没頭している姿。思いを出しあいながら没頭して遊ぶなかで、満足感や充実感を得ている状態を「遊びきる」としている。

竹信委員) 地区外の子どもはどれくらい入園しているか。

竹本園長) 栄地区、由良地区から来ている子どももいる。保護者の通勤など関係がある。

竹信委員) 保護者同士をいかにつなぎ合わせるかが難しいところ。苦労や手だては。

甲斐部長) 栄地区からは徐々に転園してこられるようになった。園としては家族遠足などの行事の際にクラスごとに触れ合う時間を持つようにしている。年長児ではPTAとして出し物を発表される伝統があり、保護者同士がつながるよい機会になっている。

竹信委員) 他地域から入園する保護者には不安もある。情報発信するなど間を取り持つような配慮が必要だろう。

徳岡委員) 町内に4園あるが、地域性はあるのか。異動などで感じることはあるか。

竹本園長) あると思う。地域というか、園のカラーもある。それぞれ良さがあるなかで、人の出入り少ないこのあたりは地域性強いと思う。

光村委員) 小学校との連携について。こども園では「10の姿」があるが、小学校から「こんな力をつけてほしい」など具体的な話はあるか。

甲斐部長) 交流計画はできており、事後の話し合いができるようになったが、「10の姿」について話ができるような時間はないと思う。

光村委員) ぜひ具体的な話をすすめてほしい。

保育について感じたこと。どの園もトラブルも喧嘩もなく過ごしている。昨年度、中部教育局の加嶋指導主事が、「トラブルなく、ストレスなく成長していくが、それでよいのか?」と言われていた。なぜこのように喧嘩しないのか。

甲斐部長) トラブルは日々している。来客もあり緊張していたのもあるだろう。

竹信委員) 友達にぶつかった時にすぐに「ごめん」と素直に言葉がでていて感心した。喧嘩は成長にとって必要だ。自分の課題や弱さを乗り越えることにつながる心の育ちを、研究で取り組んでいることをどんどん発信し、地域や保護者に見てもらえるとよい。

小学校に掲示してもらうこともよい。

小田指導主事) 交流の事後の会は小学校もなかなか時間がとりにくい。公開保育へ参加を呼びかけ、保育を見るだけでなく研究会にも参加してもらいたい。組織的に取り組んでいけるよう働きかけを行う。

徳岡委員) チャレンジタイムではただ走るだけだったが、スキップやカニ走りなど動きに多様性があると子ども達はもっと楽しいのではないか。また、0歳児の保育室の窓に新聞が貼ってあり、見られる側への配慮が感じられた。見る側も普段の姿が見られよかった。

竹信委員) 保育前の前日に打合せはしているだろうが大事なこと。評価の話合いも大切にしたい。

光村委員) 友達が作っている色水を見て「〇〇ちゃんすごい!」と言った子どもに、先生が「褒めてあげられるってすごいね!」と言っていた。すかさず褒めるかかわりがよい。

大庭課長) 保育室にバディの表が貼ってあったがどのクラスでも取り組んでいるのか。

甲斐部長) それぞれ安心する相手が組んであり、習慣付いている。

竹信委員) 指導案に「気の合う友達と」とあるが、そういう友達がまだいない場合はどのように支援するのか。

中西指導主事) 0歳児で特定の大人との間に育った人への信頼感を土台に、徐々に周りの友達へ関心が広がってくる。「先生や気の合う友達と一緒に」という段階を経て、徐々に先生がいなくても、気の合った友達となら不安なく遊べるようになっていく。

甲斐部長) 保育者が友達のおよさを見つけ、周りへ広げていく。「こんないいところもあるんだ」と気付けるよう仕組んで、意図的に関わらせていく。

## 5 指導助言 田中指導主事

- ・子ども達の姿を見ながら、子どもが発したり、子どもがした行動から保育が展開しており、これまでの研究の成果が活かされていると感じた。研究テーマが変わっても大事なことだ。
- ・協同性の視点で、5歳児の姿をどう捉え、どうしていくか。そこから考えて各年齢で今どういう育ちを育むべきか。園全体にかかわることなので、重点的に取り組んでほしい。
- ・小学校との連携、接続を大事に考えてもらいたい。交流事後の話し合いが取り上げられていたが、同じ姿を見合い共有していくことによって、書類の文言だけでは分からない姿を理解することに価値がある。掲示の発信について、園のお便りを掲示して見てももらうことも有効だと感じた。
- ・昨年度末に作成、配布した「接続ハンドブック」P.7に「幼児期に身に付けた力と小学校以降の学びのつながり」とあるが、園の先生方がどう見通しをもつかも大事である。例えば、小学校の普段の姿を見に行かれて、今育てている力がどういう姿につながるか考えてみるとよい。
- ・本園の研究の取組について、中部地区で実践発表をお願いしているところ。中部の先生方に知っていただく機会になり嬉しい。よろしくお願ひしたい。

## 指導助言 谷本幼児教育アドバイザー

- ・クラスそれぞれに子ども達の居場所があり、環境に安心してかかわっている姿があった。
- ・クラスの職員の言葉がけやタイミングが共通している。子ども達が自ら環境に関わって遊びこんでいる姿があった。協同性のテーマがわかりやすく取組やすかったと感じた。
- ・4歳児の保育では、活動が行き詰ったときに展開できるよう、園庭の自然を活かしながら用意されていた。アミを持って友達と虫を追いかけしている姿もあった。「10の姿」は個別に取り出して指導すべきものではないが、まさに協同性に向かう姿だったと思う。
- ・1歳児の保育では、もう少し自由に貼るような環境構成を考えるとよい。子どもの手の大きさにあった教材の工夫が必要。
- ・2歳児の積み木は、白木のままで面取りもしてなくて、本当に自然の素材そのものだった。形が長方形だけだったので、三角や正方形などいろいろな形で見立てやすいものであればもう少し遊びが広がったかもしれない。
- ・3歳児は、なりきって遊ぶことを楽しんでいたが、食べ物が豊富にありすぎた。溢れすぎる環境もよくない。もう少し教材を工夫すると、なお4、5歳児の姿につながりやすかったと感じた。

## 平成30年度前期 北条小学校計画訪問

日時：平成30年6月13日（水）8：50～12：45

出席者：磯江長職代理、光村委員、徳岡委員、山信委員、別本教育長、  
大庭教育総務課長、妻由図書館長、萬指導主事、小田指導主事、  
藤木指導主事、中部教育局笠見指導主事

### 1 教育長あいさつ

### 2 学校経営に関する説明

学校経営 岡本校長 学校経営要領P. 11～19

<めざすこども像>

やさしく（自尊心） かしこく（自立心） たくましく（向上心）

<本年度の重点>

【やさしく】つながり合い支え合う力の育成

#### ①つながり合い支え合う仲間づくりの推進

学級力の向上と自尊感情の育成…肯定的な見方や言葉かけのできる支持的風土づくりと  
いじめ防止対策、価値語やほめ言葉のシャワー

#### ②社会に開かれた教育課程の実現

地域連携の推進と環境教育の充実…外部講師を招いての学習や交流活動、生活科や理科、  
社会、総合的な学習の時間における体験活動の充実

【かしこく】自立して生きる力の育成

#### ③互いの学びが高まる授業づくり

主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善と基礎的基本的な知識・技能の定着

#### ④指導・学びに連続性のある幼小中高連携の推進

学びの連続性を意識した授業づくりと交流活動の充実

【たくましく】たくましい心と体の育成

#### ⑤望ましい生活習慣とたくましい心の育成

北条スタンダードの定着と学校生活への適応・学習意欲の向上

学校元気プロジェクトの取組で平成28年より4名減り不登校傾向児童現在5名

#### ⑥体力・運動能力の向上と食育の充実…残菜率0.5%以下

### 質疑

竹信委員)働き方改革でどう変わったか…どんなことを支援してほしいかアンケートを取った。

80時間越えが4月4名、5月5名。先生は子どものことを思ってどんどん仕事をされる。職業に誇りと熱意があるので、さらに高いところをねられるので、先生方の意識改革をしていかなければならない。ジョブシェアをしていったり、当たり前を意識を変えていったりしていくよう工夫が必要。

### 3 授業参観

#### 4 学校経営に関する説明

##### (1) 生徒指導 山名教諭 P. 53～55

竹信委員) 全員に個別で話す機会はあるか…教育相談として年に2回休み明けに面談をしている。

##### (2) 研究推進 山根教諭 P. 20～24

磯江委員) わかったことを忘れなくするためには?…家庭学習に取り入れたりかしくくタイムでミニプリントの基礎の問題に取り組みせたりしている。家庭と協力しながら進めていくことが大切。

竹信委員) 少人数に分かれているのに定着しないと聞いた。原因を考えていくことが大事。

徳岡委員) どの学級でも同じ教え方をされていた。学年で話し合いをされているのか。教材を一人が作り、それを共有していけば働き方改革につながると思う。

学習の流れは職員で共通理解している。流れが同じだと子どもも安心して学習に取り組める。教材やプリントは誰でも使えるように残していきたい。

竹信委員) パソコンの中に共有フォルダを作っておられる学校もある。

外国語1・2年生の時間数の取り方は?…欠時。5時間学習しているが、字数は4時間でカウントしている。

徳岡委員) 中学校で鉛筆の持ち方が悪い子が多かった。鉛筆の持ち方の掲示があり、低学年はわりあいよかったが、高学年はおかしい子が増えていた。鉛筆の持ち方、はしの持ち方を教え、直していった方がよい。

磯江委員) 生活スタンダードについて…ランドセルを6年間使っている。鉛筆の持ち方については大変だけど、言い続けていかなければならないと思う。

教育長) ぐうぴたぴんや鉛筆の持ち方についての掲示が各クラスにあってよい。家庭での評価が平成29年は低かったことから家庭教育をどうしていくのかかが今後の課題。教室環境がよくなってきている。デジタル教科書やプロジェクターはしっかり活用されている。タブレットや電子黒板の活用についてはどうか。ハイパーQ Uの活用方法について確認していくことが大切。

#### 5 指導助言

##### 笠見指導主事)

- ・環境づくりについては、全体的に落ち着いている。机と椅子の高さがあっていて児童の姿勢がよい。生活スタンダードの掲示は有効。わかば4にはスタンダードコーナーがまとめて貼ってあり、よかった。価値語が教室の黒板の隅に書いてあった。秋山先生は価値語に関わってきちんと評価されていた。
- ・授業づくりについては、パソコンや実物投影機等活用されていてよかった。先生方の日々の準備がしっかりしている。教師対児童の対話が多かった。児童同士の対話的な学びを数多く取り入れていくようにするとともによい。
- ・山名学級では学びの足跡がしっかり残されていた。外国語では先生方が楽しそうに活動されていたのが印象的だった。

## 平成30年度前期 大栄小学校計画訪問

日時：平成30年6月5日（火）9：00～13：00

出席者：磯江長職代理、光村委員、徳岡委員、山信委員、別本教育長、  
大庭教育総務課長、前田生涯学習課室長、萬指導主事、小田指導主事、  
藤木指導主事、中部教育局宇山指導主事

### 1 教育長あいさつ

### 2 学校経営等の状況説明①

学校経営 小木校長P. 2～12

#### <めざす学校像>

「笑顔あふれる元気な学校」に変更（昨年度「明日を楽しみにできる学校」）

- ・子どもが行きたいと思う学校・・・仲間づくり・学級づくりに取り組み、子どもが安心して笑顔で学び、生活できるようにしていく。困り感を持ち支援を必要とする子どもへの教育を大切にする。

- ・教職員が働きがいを感じる学校・・・「やめる・減らす・変える」をモットーにしている。

「教師の笑顔は子どもの安心」「子どもの表情は心の表現」を理念に

- ・保護者・地域から信頼される学校・・・学校だからできることを優先にしていく。

#### <めざす教師像>

「魅力ある教師」に変更（昨年度は「チーム大栄」）・・・学ぶ続ける教師・組織で対応する教師

#### <めざす授業像>

子どもの力を伸ばす授業づくりを進める

#### <本年度の取組の重点事項>

- ・国語科を中心に学ぶ意欲と確かな学力の定着・向上に努める。

- ・クラスパワーの向上、生活習慣定着、特別支援教育の充実を通して、心を耕し豊かな心を育む指導に努める。

- ・運動好きで健康な子どもの育成に努める。

#### <学校評価計画>

- ・企画委員会で平成30年度大栄小学校スクールプランを作成する。

### 2 質疑

竹信委員）支援学級の担任は免許状を持っているか・・・持っていない者も数名いる。免許状取得講座を受ける職員もいる。

長時間勤務を減らす手立て・・・7時35分にはバスで児童が登校してくる。職員は8時までにはほぼ出勤している。会議のねらいを明確にして時間を守ったり、家庭連絡票の見直しを進めたりしている。外部団体での大会への出場について、育成会と協力したりB&Gと協議したりして連携を進めている。月に1・2回早く帰る日の設定をしていく。また、教科担任的な取組についても考えている。

光村委員）外国語の取組について・・・火・木に授業を行っている。

授業を見る視点・・・クラスパワーアップ会議の結果をレーダーチャートにして掲示し

ている。

竹信委員) プログラミング教育について・・・昨年より職員研修でタブレットの研修を行っている。論理的に考えていく過程を大切にしている。指導者に意識を持つようにしていく必要がある。

### 3 授業参観

### 4 学校経営等の状況説明②

(1) 研究 桜井教諭 P. 14～16

(2) 教育課程の編成について 福澤教諭 P. 13

(3) 生徒指導 遠藤教諭 P. 17～18

(4) 人権教育 堀教諭 P. 19

竹信委員) 共通理解を図ることはよいこと。職員会の前に報告する時間はあるか・・・ポイントを絞っているので時間はかからない。終礼の時の資料はパソコンに入れている。

光村委員) 鉛筆の持ち方が気になる・・・ずっと指導を続けているが、なかなか定着しない。名札をつけて帰る・・・地域の人に名前を覚えてもらうため。バス通の児童が約半数おり指導の役立てるために名札を付けて帰している。

### 5 指導助言

宇山指導主事)

- ・学校経営については、教師も育てなくてはならない。目標があって経営方針がなければならぬ。
- ・業務改善については企業と違ってすっぱりやめられない。重点目標が大事になってくる。教員・保護者・教育委員会と話し合い、共通理解を図ることが必要になってくる。
- ・授業については、掲示など学年を通して共通性が見られた。横との繋がりができていた。

課題

- ・ICT活用についてタブレットはみんなにはいらない。拡大して大きく見せることが大事。
- ・道徳の教科化については、内容を吟味して学習の過程でどうかかわるかが大事。評価の内容の検討が必要となってくる。
- ・子どもたちに思考させる発問がなかった。学校・授業が楽しいことにつながる発問の工夫が必要。
- ・いじめの認知は0を目指していない。たくさんあげて共通理解していくことが大切。

教育長)

- ・ぐうぴたびんの取組やそうじについて子どもに見せていくことが大事。掲示を各教室にするとうい。
- ・学習環境が整ってきている。知りたいという思いで食いついてきている1年生の成長ぶりに驚いた。

## 平成30年度前期 北条中学校計画訪問

日時：平成30年6月20日（水） 13：30～16：40

○町教育委員会訪問者 10名

別本勝美教育長・磯江典子長職務代理・光村哉智代委員・徳岡幸裕委員・竹信純一委員  
大庭由美子教育総務課長・福島奈美社会教育主事  
萬指導主事・小田指導主事・藤木指導主事

○県教育委員会（中部教育局）訪問者 福田早由里 指導主事

### 1 あいさつ 別本教育長

日々一生懸命の取り組みが見て取れる。生徒たちもしっかり集中している。この流れを大切にしたい。

### 2 学校経営の状況説明① 牧野校長

資料p1～p3

意見交換

<竹信委員>

・協同学習のルール、グループの学習の進め方はどうなっているのか？またどういうときにグループを使うのか？タブレットが一人1台でよいのだが、最初は一人で考えて、次にペアやグループを使うのはどうだろう。

→杉江先生の教えには特にそのようなルールはない。

ご指摘のとおり、全部グループを使うようなことはない。グループ活動がメインではないので、自由に意見交換できるスタイルを取り入れている。

・小学校で規律学習をしっかりやってくるし連携もされている。

<光村委員>

・不登校にならないように研修などは行っているか？

→教育センターでの研修はある。全職員向けにはハイパーQの分析や見方についての研修を行っている。

<徳岡委員>

・小学校でも不登校が増加していると聞いている。地域性とかあるのだろうか。父性が関係していると感じている。押し出しが弱いのでは。

<竹信委員>

・不登校の中には発達障害の割合が多いが対応は。教師一人では対応できないので支援員さんに関わってもらうことはある。

### 3 授業参観（5限）

### 4 学校経営の状況説明②

◎研究推進について 山口教諭

資料p 5～p 8

◎教育課程、生徒指導について 松本教諭

資料p 4, p 9～p 16

#### <光村委員>

- ・ p 12にあった制服着こなしセミナーとは  
→トンゴより来られ制服の着方を指導してもらった。

#### <竹信委員>

- ・ 1年生でトラブルが多いと聞いた。生徒指導でも小学校と連携していると思うが中学生になるとなぜ増えるのか？また4月学級づくりでどう取り組まれているか？  
→思春期の関係もあると思うが、子ども同士の距離感が人によって成長によって違ってくる。そのことによるトラブルも多いのでは  
中1は4月に船上山宿泊訓練で、中学校の生活や人間関係づくりを行っている。
- ・ 研究推進の説明で家庭学習が少ないとあったが、各学年での希望時間は？  
→現在平均1時間から2時間で全国より少ない状況。家庭学習の手引きには、学年+1時間を家庭学習の目安としている。3年生は学習に対して意識は高い。少しずつ家庭学習の時間は増えているが、全体的には少ない。

#### <徳岡委員>

- ・ 家庭学習の時間は少ないのに結果が出ている。密度が濃く集中しているのかこのままで良いのでは。  
→比較的宿題はしてきている。今年は課題と宿題を連動させるように取り組んでいる。（意味のある宿題）また自分で振り返りができるよう教科書をきちんと使うようにもしている。

#### <福島さん>

- ・ 家庭学習の時間に塾の時間は入っているか。  
→入っている。

#### <竹信委員>

- ・ 北条中の教育課程の特徴は？北条小は地域との連携で福祉施設などと交流をしているが、中学校でそういう取組はあるか。  
→協同学習を取り入れる。総合的な学習と文化祭をリンクさせている。  
1年ユニバーサルデザイン。2年手は手話。3年人権劇  
職場体験（ワクワク北条）で地域とつながるところはある。またその時そのとき地域とはつながっている。

#### <磯江委員>

- ・ 質問タイムの内容は  
→教科で割りあてている。いじめアンケートの教育相談もしている。

#### <竹信委員>

- ・ 特別支援学級B, C組の交流学級について  
→技能教科と道徳、学級活動で交流している。

## 5 懇談会 (全職員と)

### 自己紹介

懇談テーマ「学力向上、人間関係づくりに関する各学年・各教科の特色ある取り組み」

#### ○各学年の様子

##### 2年：吉田教諭

昨年3クラスから本年度2クラスに、1クラス34人から35人になった。

比較的仲良くやっている。意思疎通がうまくできずにトラブルになることもあるが少しずつ成長している。今はワクワク北条に向けた取組をしている。1年時に社会人講師に中学生時代に身につけておくことを聞いている。それぞれの職場で働く意義を見つけて欲しい。

##### 3年：進木教諭

明るく仲良く前向きに取り組んでいる。

学年の先生がしっかり話し合っ生徒たちにあたっている。

##### 1年：杉本教諭

元気があり、授業については毎日オールA。男女の壁はない。女子の人間関係の難しさを感じている。補佐員の先生、保健室の先生、神田先生のサポートで毎日学校に来ている生徒もいる。

#### <徳岡委員>

- ・教科の教室で授業を受けていたが、特別教室で授業をするメリット、デメリットは？
- 必要な掲示物、教材が常にある。ICT機器のセッティング準備の時間が省ける。
- 授業を受けに教室に行くことで「学びに対する心構え」ができています。

#### <竹信委員>

- ・数名あやうい生徒がいる。小学校の時からそういう傾向があったのか。新たに増えたのか？
- 事前に聞いていた子が基本。小学校と同じ状況である。
- ・支援員さんのつき方は？
- ケースバイケースでずっとつきっきりではない。教室に入ったら離れることもある。
- ・チームで対応されることは大事。素早く対応することが必要。

#### A組 (知的)：背戸教諭

3年生の一人は気持ちが落ち着かない。もう一人は穏やかだが自分の気持ちを表現できない。情緒面でケアが必要。進学を考えている。

#### B組 (情緒)：神田教諭

3年生になって落ち着いてきた。県立高校への進学を希望しており成績も伸びている。

3年間見ていると変化がわかる。特別支援学級で丁寧な関わりをしていったのが良かった。

#### C組 (情緒)

昨年に比べて落ち着いては北が、1・2年同時進行の学習の難しさがある。子どもたちはやる気があって伸びている。

<竹信委員>

- ・拡大教科書を使用している生徒がいたが  
→今の状況では弱視はあまり進んでいない。同じような教材（通常）を使っている。
- ・視力が0.3未満の生徒は県内160人くらいいる。見えているようで見えていない子もいる。色のユニバーサルデザインにも配慮がある。いろいろなことを念頭におきながら進めていって欲しい。

<磯江委員>

- ・ワクワク北条では、事業所への願いを生徒が自分でするときいたが？  
→希望は生徒から聞いている。事業所には学校からお願いしている。

<光村委員>

- ・どんな事業所に体験に行くのか？  
→ローソン、小学校、こども園など、農園にもいく

○町教委への要望は？

- ・ICT支援員がおられて助かっている。学校周辺の雪かきも感動した。
- ・タブレットが入って、生徒が思考を深めることができた。タブレットのペンが消耗していくので修理をして欲しい。
- ・部活動指導員もありがたい。
- ・理科室にもエアコンを設置していただき感謝している。
- ・音楽教室のTVが壊れている。

<別本教育長>

いろいろ感謝してもらってありがとうございます。教育機器を整備してはいるが、使っている実績がないと予算がつかない。学校公開などで町民の方へどんどん見せて欲しい。2学期からエアコンが使える。体育館の照明もLED化していく。夏休みに全中ソフトボール大会があり、グラウンドの整備を行った。大会について先生方にも協力をお願いしたい。平成32年度の小学校外国語の教科化に伴い、今年より先行実施を行っている。町では日本人3人、ALT3人を配置している。中学校の英語の先生にも小学校に関わって欲しい。視察研修の参加と学んだことを学校に生かして欲しい。要望したいことはどんどん言って欲しい。エキスパート教員をめざしてほしい。教員の年齢構成が偏っている。若い先生を指導できる力をつけておいて欲しい。40代以上の方は管理職試験を受けていただきたい。

<中部教育局 福田指導主事>

- ① 子どもたちと先生方の表情  
笑顔でとても明るい。先生方の表情が反映している。
- ② 学習のめあて、流れがかいであった。学力補償が危機管理。決めたことを全職員がやりきることが大切
- ③ 廊下に新しい新聞が掲示してあった。情報がタームリーに生徒に発信されている。
- ④ ミニ授業研究会など新しい取組もある。昨年度の反省をもとに、PDCAサイクルがきちんとされている。



## 平成30年度 大栄中学校前期計画訪問

日時 平成30年度6月12日(火) 9:00~12:40 給食試食

○町教育委員会訪問者 9名

別本勝美教育長・光村哉智代委員・徳岡幸裕委員・竹信純一委員

大庭由美子教育総務課長・杉本裕史生涯学習課長

萬指導主事・小田指導主事・藤木指導主事

○県教育委員会(中部教育局)訪問者 嘉戸浩二 指導主事

### 1 あいさつ 別本教育長

修学旅行での港区との交流に感謝、国際交流(台湾)では大栄中から17名が3泊4日で参加する予定。学習では大栄中が研究で取り組んでいる5ユニット学習が浸透してきて学校の取組に統一感がでてきた。

### 2 学校経営等の状況説明① 松浦校長 資料p2~p3

生徒指導主事、人権教育主任 資料p22~p25

### 意見交換

<光村委員>

・3年生をキーマンとした人権の取り組みとあるが、夏休み以降になると受験があるが。  
→3年生を生かしたい。中3交流会に参加させたい。生徒会を使いたい(3年生)

・中3交流会は昨年参加0だった。中3にこだわらなくても他の学年でもよいのでは。

<竹信委員>

・中3交流は高校進学後の高校生活につながっている。  
・特別支援教育の充実が学校に評価に入っているのか?

→あたり前のこととしてとらえたい。特別支援教育が機能しないと学校全体がうまくいかない。  
昨年度A評価だったので、今年度は評価項目には入れていない。

・地域に根ざした取り組みについて、中学生の地域行事への参加が少ない。どういうふうに地域で呼びかけや参加を促せばよいのか。

→どんどん中学生を引っ張り出してほしい。中学生の出番を作ってもらおうと出やすい。

大栄の生徒は自分から手を上げる子は少ないが、役をつけるとする。

各集落に担当の教員をつけている。全員が一斉に行くことはないが長期休業前などに訪問

<徳岡委員>

- ・けんかしても仲直りする力が弱いと聞いたが、具体的にはどんなところか？

→1小1中で来ているので、人間関係が固定化し他の人とのつながりが薄い。

自己発信、自己解決力が弱い。何かあったときに、小さい頃から誰かが仲介に入っているのではないか。

### 3 授業参観 【2限】【3限】

#### 4 学校経営等の状況説明② 教務主任

懇談

<徳岡委員>

- ・プリントを使った授業が多かったが、授業の中でどのようにプリントを活用しているのか。
- 前時に教科書を使って、本時はプリントで定着を図る。または、プリントを使って授業の導入をしその後教科書の内容に入るなどプリントを活用している。

特別支援学級では、課題の終わりが見やすいように活用。本時はプリント5枚 など

1年生の授業では、学習委員が時間割を間違えて書いていたため、教科書をコピーしていた。

<竹信委員>

- ・全体的には落ち着いて学習していた。
- ・後ろの黒板に宿題が書いてあったが量はどうか。(少ないのではないか)
- ・家庭学習を一人でやる力もいる。4の生徒を5にあげる方策は？個別に宿題を追加することはあるか。

→宿題については、総体予選の後なのであまりでていない。

家庭学習の量については、学力低位の生徒にスポットをあてている。100%提出を目標に全員がやりきる力をつける。できなかつたら放課後部活前にやる。

冬時間になったら宿題の量も増えてくる。

- ・学習の流れが書いてある。書き方について「個別、全体、班」などの書き方がよいのかどうか。統一されていないようだ。

3年の英語 音読の時にルビをふるといっておられたが、オールイングリッシュの授業をめざしてほしいが個人差がある。コミュニケーションをするときにも工夫があるとよい。中学校の授業では小学校のバージョンアップを図っていくなど小中の連携がより必要となってくる。

- ・教師の発問に生徒が答えて終わりではなく、生徒の「自分はこう思う」に対して、「ではこういうことは？」など教師が質問を付け加えたり、問い直しをしたりと授業の中で議論が活発に行われるとよい。話し合いの中で内容を深めていってほしい。
  - ・子どもの思考の流れと深まりを次の計画訪問で見せてほしい。
- お客さんが入ってくると生徒の活動がピタッと止まってしまう。お客さんがいない静かな場面で揺さぶりをかけていくことはある。いつでも話し合いができる力をつけていきたい。

#### <光村委員>

- ・おとなしいシャイな子が多い。発表する力が弱い気がした。子どもに発表させる場をこれからもどんどんつけていってほしい。
- 高校入試面接にもつながる力なので今後しっかり取り組む。

#### <大庭課長>

- ・班学習について、理科の学習では全員が参加できる工夫がしてある。プロジェクターやパソコンはどの授業でも使っているのか。
- 頻繁に使っている。
- ・タブレットはどうか。
- グループ活動、調べ学習で使用している。

#### <杉本課長>

- ・スイカ長いもマラソンのボランティアや、お台場向陽中との交流などお世話になっている。感謝。学級がきれいだった。掲示物もきちとしてあり環境が整ってすっきりしていた。

#### <竹信委員>

- ・掲示物については、校長、主任、担任のたよりに差があった。思いや考えを保護者にどう伝えていくか情報発信は大切である。

#### <教育長>

- ・離席する生徒も少なく落ち着いて授業を受けていた。新しい先生に5ユニット学習が浸透していない。授業の中での取り組みが見られなかった。
- ・T2、支援員の関わりが見えてこない。関わり方や必要性に疑問がある。レインボープランがやっと板についてきた。7/4に鳥取中央育英の校長と意見交換を行う。中学校としてできることをまとめておいてほしい。
- ・中学校3年生はマスク着用がまだ多い。

<中部教育局 嘉戸 指導主事>

- ① 5ユニットが定着してきている。流れより中身が大切。学び合いをどうユニットに組み込むのが課題。

U2個人追求では、ワークシートの自分の考えを書くことが多かった。時間がかかりまとめきれずに次の活動にうつってしまう。

また一人の子の書いたものを発表してみんなで聞いて終わりになってしまう。

個人追求では、ある程度文章になってなくてよい。根拠になることばに線を引き、キーワードを元に自由に話し合う。それらをクラス全体で共有しもう一度班で話し合うと深まりがある。最後に自分の言葉でまとめる活動が大切。

- ② 人間関係づくり

1小1中で同調圧力が強い。小学校からの立ち位置や役割が決まってしまう。自分の意見が自由に言えないのでは。

価値観で話し合う活動を取り入れればよい。

例 「無人島に持って行くものは何？」

例 「苦しいことを仲間で乗り越える」

一人が一つ進路の悩みメモし、それについてみんなで話し合う。

活動の中で、発見や深いところでの気づきが生まれ、新しい人間関係へつなげる。

昨年度の反省に教師自身が、月日が進むにつれどう変わっていったのか語れるようにという指摘があった。後期の懇談につなげてほしい。